

第1章 圏域の概要

鎚川は、群馬県と長野県の県境に位置する物見山付近に源を発して南東へと流下し、市野萱川、南牧川を合流しながら妙義山麓を下り東に進路を変え、雄川、高田川を合わせて富岡市街地を流下し、さらに鮎川を合流して高崎市で烏川へと流れ込む流路延長58.8km、流域面積632.4km²、69支川を持つ本県西部地域を代表する一級河川である。このうち鮎川合流後の下流3kmが国土交通省管理区間であり、それ以外は県管理区間である。

鎚川圏域の北西部と南側は、妙義・荒船山地と関東山地を中心に標高1,000mを超える山々をなし、そこから下流に向かい、丹生丘陵地や小幡丘陵地など100mから600m程度の起伏を持つ丘陵山地が分布し、鎚川の上流地域を形成している。下流地域は圏域の北東部で、下位が砂礫台地、上位がローム台地の河岸段丘が発達し、さらに下流は氾濫原性の低地となっている。

上流地域の特徴は、妙義山や荒船山などの大岩壁からなる山々や急峻な地形に作られた段々畑などである。下流地域は、段丘面を利用して市街地や農耕地が形成されている。

圏域内の地質は、上流地域の妙義山周辺は火山活動による安山岩類で覆われており、南部山間地域は変成岩類及び秩父古生層から成り、下流地域は第三紀層の頁岩や砂岩を基盤とし、その上を第四紀の関東ローム等の堆積物が覆っている。

圏域内の気候は、内陸性の気候で積雪も少なく、年平均降水量は1,200mm前後で県内でも降水量が少ない地域であり、比較的温暖で過ごしやすい地域と言える。また、この圏域には豊かな自然が存在し、多くの動植物が生息・生育している。

このような環境から圏域内では古くから人々の生活が営まれ、縄文・弥生期の遺跡も数多く点在しており、中でも富岡インターチェンジ附近の中高瀬観音山遺跡は弥生時代における高地性集落の可能性を示す貴重なものとなっている。また、奈良時代初期の多胡郡建郡を記念して建てられた日本三古碑の一つである多胡碑、日本名水百選の雄川堰が流れ、武家屋敷、庭園など江戸時代の面影を残す城下町小幡、明治期における我が国の近代産業の先駆的役割を果たした官営富岡製糸工場などがある。

鎚川とその支流が流れる市町村は、下仁田町、南牧村、妙義町、富岡市、甘楽町、吉井町、藤岡市、高崎市の8市町村であるが、特に鎚川と密接な関わりがあり、沿川に生活圏があるのは、下仁田町、南牧村、妙義町、富岡市、甘楽町、吉井町の6市町村である。鎚川圏域は、これら6市町村、人口約11万人から成り、その内富岡市に約46%の人々が集中しており、富岡市を中心

とした生活形態となっている。近年の人口の推移は、山間地域は過疎化により減少傾向にあり、市街地周辺地域は増加傾向であるため、圏域全体としてはほぼ横這い状態となっている。

東京圏から身近な距離にあり、富岡市を中心とする市街地と山間地の緑豊かな自然環境を有している当圏域では、今後、都市交流型農業への取り組みや余暇活動の場としての利用等により進展が見込まれている。